

透析例の血液生化学栄養指標における栄養因子の探索

三重北医療センター いなべ総合病院^{A)}

三重北医療センター 菰野厚生病院 薬剤部¹⁾、検査科²⁾、栄養科³⁾、看護部⁴⁾

三重北医療センター いなべ総合病院 薬剤部⁵⁾

○谷口靖樹^{A)1)}、澤明日香²⁾、前川純一¹⁾、加藤理津子⁴⁾、中谷理恵³⁾、石田美希⁴⁾

松浦史佳¹⁾、朝倉紗希³⁾、川瀬将紀⁵⁾

【背景】通常、透析例はKの排泄機能、消化器の蠕動運動の低下や摂食制限が不十分、また透析導入の原因が糖尿病の例においては病態の影響も加わり複合的に血清K濃度の高値を認める。従って定期的な透析を行うまた日常的にK低下作用を有する薬物治療を併用しK濃度の管理を行う。ただし透析例の中には栄養摂取が不十分で血清K値(透析前)の低値を示す場合がある。このような例は身体的、血液生化学的ともに低栄養状態を呈していることが観察される。そこで今回は、血清K値と栄養指標の関連性ならびに栄養指標に対する血清K値のCut-off値の検索を行った。

【対象・方法】2019年3月から4月に血液生化学検査を実施された透析89例(外来66例、入院24例)うち検索項目の検査が未実施例2例、外来から入院へ移行した同一例は外来例3例を除外し最終分析対象例外来61例・入院24例とした。一次評価項目は透析前の血清タンパク質(TP・ALBおよびA/G比)、電解質(Na, K, Cl, 補正Ca, P)、血糖管理(グリコアルブミン, 血糖値)の関連性を探索。二次評価項目は外来透析例と入院透析それぞれの差および一次評価項目同様に関連性を探索。分析はKolmogorov-Smirnov Testにて正規性を確認し相関はピアソン相関検定、群間比較は対応のないt検定を実施。結果)一次評価項目について外来入院87例のTPおよびAlbはKと正相関($R^2=0.20$, $R^2=0.26$)。外来および入院例の比較においてTP, Alb, Kはそれぞれ外来例が入院例に比し有意に高値。そこで一次評価項目同様にそれぞれ関連性を検索したところ入院例のみ相関性が示された。 $(R^2=0.50, R^2=0.17)$ 。入院例のTPが $5.8 \pm 0.7 \text{g/dl}$ を示し、その前後をoutcomeとしてKのCut-off値をROC曲線から検索したところ $2.9 \sim 3.2 \text{mEq/L}$ であった。考察および結語)今回血清蛋白質とK値には相関が示され特に入院例のような低値を示す場合は強く相関が認められた。またK値が 3.2mEq/L 未満の場合、特に栄養障害への影響があることが示唆された。